10　　尼の信仰心 　文法　助詞①　格助詞・接続助詞

ちかき、伊勢の国ⓐにある山中にの結びて、せおとろへて、顔よりはじめて①手足まことにきたなき尼の、涙を流して念仏する侍り。深く思ひ入らむ人とは見ゆれども、あまりに顔ⓑよりはじめてきたなくおはするは、「いかに、②さまではあらじぞや」と人々言ひければ、「さうなり。さぞきたなくすらむ。されども、もなだらかにならⓒば、㋐そぞろなること言ひて、③ならぬことも侍るべし。されば、わざと身を㋑やつすに侍り。つねに涙ⓓのこぼるることは、生死のおそろしさに、いかがと覚えて、流るるに侍り」と言ひけり。まことに、夜昼念仏のこゑること侍らねⓔば、人々もまことのとこそとて、貴みて、かたのごとくの命を支ゆるわざをば、里人とぶらひきこえけり。

語注

伊勢の国＝今の三重県。

なだらかにならば＝整って程よくなれば。

後世者＝極楽往生を願って修行している者。

かたのごとく＝慣例に従った。

【原文】

ちかき、伊勢の国にある山中にの結びて、せおとろへて、顔よりはじめて手足まことにきたなき尼の、涙を流して念仏する侍り。深く思ひ入らむ人とは見ゆれども、あまりに顔よりはじめてきたなくおはするは、「いかに、さまではあらじぞや」と人々言ひければ、「さうなり。さぞきたなくすらむ。されども、もなだらかにならば、そぞろなること言ひて、ならぬことも侍るべし。されば、わざと身をやつすに侍り。つねに涙のこぼるることは、生死のおそろしさに、いかがと覚えて、流るるに侍り」と言ひけり。まことに、夜昼念仏のこゑること侍らねば、人々もまことのとこそとて、貴みて、かたのごとくの命を支ゆるわざをば、里人とぶらひきこえけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

尼が〔　　　〕を流して〔　　　　〕を唱えていた。彼女の身なりを〔　　　　　　〕感じた人々が、それを指摘したところ、尼は、かねてからの願い（＝〔　　　　〕）が遂げられなくなることを恐れ、〔　　　　　〕そうしていると言った。〔　　　　　　　　　　〕に〔　　　〕を流し念仏する尼を、人々は尊び支えた。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。（終止形でよい。）〈3点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ～ⓔの用法として最も適当なものを選べ。〈1点×5〉

ア　主格　　イ　体言の代用　　ウ　時・場所　　　エ　連体修飾格

オ　同格　　カ　動作の起点　　キ　手段・方法　　ク　仮定条件

ケ　確定条件・原因理由　　コ　確定条件・偶然条件

ⓐ〔　　　〕　ⓑ〔　　　〕　ⓒ〔　　　〕　ⓓ〔　　　〕　ⓔ〔　　　〕

問四　チェック問題　助詞①　格助詞・接続助詞

次の傍線部を現代語訳せよ。〈2点×3〉

1　長きして眼をつかみつぶさむ。（竹取物語）

2　なにごともいささかなることもえせで、…（伊勢物語）

3　いとか弱くて、昼も空をのみ見つるものを、いとほしと思して、…（源氏物語）

1〔　　　　　　　〕　2〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

3〔　　　　　　　〕

問五　傍線部①を現代語訳せよ。〈7点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②の解釈として最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　いくら世の中をはかなむと言っても、いつまでも泣きやまないでいることはないだろう。

イ　いくら身なりを構わないと言っても、普通はここまで汚い状態ではいないだろう。

ウ　いくら貧しいと言っても、たったひとり人里離れた土地で暮らすことはしないだろう。

エ　いくら仏道修行をすると言っても、身なりが汚くなるほど打ち込んだりはしないだろう。

〔　　　〕

問七　傍線部③とあるが、尼にとっての「本意」とはどのようなことか。十五字以内で答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問八　本文の内容に合致するものを一つ選べ。〈8点〉

ア　尼は自らをあえて厳しい境遇に置くことで、一層の功徳を積もうとしていた。

イ　尼は自分を憐れむ周囲の人々の言葉に反発し、あえて虚勢を張った発言をした。

ウ　人々は尼の言動に触れ、彼女の求道心が本物であることに理解を示すようになった。

エ　人々は尼の置かれたつらい境遇に同情し、彼女の生活を支援することにした。

〔　　　〕

【解答】

問一　涙　念仏　きたなく　本意　わざと　生死のおそろしさ　涙

問二　㋐＝思いがけない〈3点×2〉

㋑＝みすぼらしく姿を変える・地味な格好にする

問三　ⓐ＝ウ　ⓑ＝カ　ⓒ＝ク　ⓓ＝ア　ⓔ＝ケ〈1点×5〉

問四　１＝長い爪で　２＝することができないで〈2点×3〉

３＝見たのに

問五　手足が本当に汚い尼で、涙を流して念仏を唱える尼がございます。〈7点〉

問六　イ〈8点〉

問七　仏道修行に一心に励むこと。（13字）〈10点〉

問八　ウ〈8点〉

【現代語訳】

この頃、伊勢の国にある山の中に柴の庵を作って、痩せて容色が衰えて、顔をはじめとして手足が本当に汚い尼で、涙を流して念仏を唱える尼がございます。（仏道修行を）心に深く思うような人とは思われるが、あまりにも顔をはじめとして（身なりが）汚くいらっしゃるのは、「なんとまあ、（普通は）それほどまでは（汚い状態で）いないだろうよ」と人々が言ったところ、（尼は）「そうなのだ。（人々は私のことを）さぞかし汚くお思いになっているだろう。そうではあるが、身なりも整って程よくなれば、（周りの人が）思いがけないことを言って、（私の仏道修行に一心に励もうという）かねてからの願い通りにならないこともございましょう。だから、故意に身なりをみすぼらしくするのでございます。（念仏する時）いつも涙がこぼれることは、生死の恐ろしさに、どうしたものかと思われて、流れるのです」と言った。本当に、いつも（尼の）念仏の声が途切れることがございませんので、人々も本当の極楽往生を願って修行している者と思って、敬って大事にして、慣例に従った（尼の）生活を支える行いを（しようと）、その土地に住んでいる人は（尼のもとを）お訪ね申し上げた。

【補充問題】

問１　次の傍線部の助動詞の、文法的意味を答えよ。

①「さまではあらじぞや」（３行目）

②「本意ならぬことも侍るべし」（４行目）

③「本意ならぬことも侍るべし」（４行目）

④「かたのごとくの命を支ゆるわざをば」（７行目）

問２　「手足まことにきたなき尼の」（２行目）と同じ用法の「の」を、次から選べ。

ア　風交じり雨降る夜の雨交じり雪降る夜は（万葉集）

イ　前の守、今のも、（土佐日記）

ウ　いかなる人の御馬ぞ（徒然草）

エ　春たてば花とや見らむ白雪のかかれる枝に鶯の鳴く（古今和歌集）

問３　「さまではあらじぞや」（３行目）の「さ」の指す内容として最も適当なものを選べ。

ア　世の中をはかなんだ尼が、いつまでも泣き止まないこと。

イ　仏道修行に励む尼の身なりが、とても汚れていること。

ウ　尼がたった一人で、山中で貧しい庵生活をしていること。

エ　尼がなりふり構わず一心に仏道修行をしていること。

問４　現代語訳せよ。

①「さぞきたなく思すらむ」（３～４行目）

②「わざと身をやつすに侍り」（５行目）

問５　「わざと身をやつすに侍り」（５行目）とあるが、「尼」がこのようにしたのはなぜか。最も適当なものを選べ。

ア　身なりが整って程よくなれば、思いがけないことを言われ、修行の妨げになることが生じるかもしれないと考えたから。

イ　故意に身なりをみすぼらしくして修行に励むことで、信仰心の深さを示し、神仏に願いを叶えてもらおうと考えたから。

ウ　土地の人々に生活を支援してもらっている立場にありながら、華やかな身なりでいることは申し訳ないと考えたから。

エ　きれいな身なりのままで過ごしていたら信仰心が揺らぎ、一度断ち切った俗世に未練を感じてしまうと考えたから。

【補充問題解答】

問１　①打消推量　②打消　③推量　④比況

問２　ア

問３　イ

問４　①さぞかし汚くお思いになっているだろう

②故意に身なりをみすぼらしくするのでございます

問５　ア